LCR日本語部主日礼拝説教
2014年5月4日
Intern Becca Ajer
“When God Shows Up”
「神が現れる時」

皆さん、ホームレスのイエス様の彫像をご覧になった事がありますか？

ラジオの国内放送（NPR)で何週間か前にその話しが報道されていました。簡単に言うと、ノースカロライナのDavidsonで、“聖アルバン・エピスコパル教会”の外にこの彫像が設置されたというのです。それはベンチで、ベンチには毛布にくるまった男が座っている彫像です。彼の手や顔は毛布で覆われて見えないのですが、彼の足だけは露出されていて、十字架に架かった傷が見えているそうなのです。

この彫像をめぐって、この地域で様々な異なった反応が起きました。ある人達にとってこれは非常に不愉快な思いにさせる作品でした。　この彫像が、この地域全体にとって良くない印象を与えていると彼らには感じられたのです。彼らが心配したのは、もしかしてこの地域に、本当のホームレスが集って来て住み着いてしまうのでは、という事なのです。また、他の人達は聖なる神様をこのように描くなんて、神様を冒涜しているのではないか、この為に彼らの信仰が低いと思われ、この地域全体の品位が下がるのでは、と考えたのです。

中にはこれが彫像だとは思わず、本物の人間だと思って警察に電話をした人もいました。ということは、彼女はイエス様を警察に訴えたというわけです。

しかし教会員の中にはこの彫像を違う目で見ている人達もいました。彼らにとってこの彫像は、自分たちの信仰心に最もピッタリしていると思ったのです。この教会の牧師はこう言いました、“この彫像はこの教会の真髄を表している”と。

ある人は、このホームレスのイエス様の隣に座り、彼の足に触れながらお祈りをしていました。彼らはこの彫像を見てイエス様が住む家も無かった事を思い起こすことができたのです。イエスは転々と場所を移動されました。幸いな事に人々はイエスを自分たちの家に招き入れ、滞在させてくれました。

この彫像は人々にマタイによる福音書にある箇所を思い起こさせたのかもしれません：イエスはこう言われました。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていた時に食べさせ、のどが渇いた時に飲ませ、旅をしていた時に宿を貸し、裸の時に着せ、病気の時に見舞い、牢にいた時に訪ねて

くれたからだ．』彼らは、『何時私たちはあなたにお会いして、そのようにしましたのでしょうか？』と彼らが尋ねると、イエスはこう答えられました、
『あなたたちが、最も小さな者の一人にしたのは、私にしてくれた事なのである』。（マタイによる福音書25：31−40意訳）

イエスが彼の会衆に思い起こさせた事は、私たちは神様を見ず知らずの人の中に見つけることができる、それは、神様が私たちのまったく予期していない時に予告無しに、神様の選んだ時に現れて下さるという事実なのです。

確かに聖書の話の中にもそのような事が書かれています。創世記に書かれている話ですが、主がアブラハムに現れます、しかしアブラハムはそれが解りません。彼は幕屋の入り口に座っていたのですが、目を上げると3人の人達が立っていました。アブラハムは彼らを招き入れ、飲食を共にします。そして随分後になってから、あの時は、神様が自分を訪ねてきて下さったのだと悟ったのです。

そして、勿論今朝私たちに与えられた福音書の箇所が正にそうです。神様が見知らぬ人を通して姿を現した出来事のひとつです。二人の男性がエマオに向って旅をしていました。見知らぬ人が現れ、彼らと一緒に歩き始めました。見知らぬ人は二人が何を話しているのかと聞くと、イエスの事を話しているのだと答えます、彼がどのように死んだか、彼が本当に救い主だったという事を話しているのだと。彼らはイエスが葬られた墓が空っぽだった事を言いますが、復活の事は話しません。　話を聞いていた見知らぬ人は（実はイエスなのですが！）彼らには未だに何が実際に起こったのか全く解っていないのだ、という事実にイライラします。イエスは、彼らに全て起こった出来事は予言されていた事であると説明します。それでも、二人の男は未だにイエスを見知らず人としか見ていないのです。

彼らはテーブルに一緒に座るまで、そして彼らにとって見知らぬ人がパンを裂いてそれを祝福した時に、初めて一緒にいるこの人物がイエスだと悟ったのです。彼らの見知らぬ人との出会いは正に彼らを神のみ前に導いたのです。

この話を読むと、少しおかしな話ではないか、と思えるのです。二人の男は、どうしてこの見知らぬ人がイエスだと解らなかったのでしょうか？どうして見抜けなかったのでしょう？　イエスはみ言葉を語り、預言の事実も説明し、どれ程救い主としての約束を全て守ったかを彼らに話しているのです。それにも拘らず、イエスが座って食事を分かち合うまで、彼らはイエスだと解らなかったのです。

私たちも私たちの生活の中にイエスの存在を見るという事においては、この二人の男と同じように間が抜けていると思います。私たちが住んでいる世の中では、神様が

突然現れる事など期待もしていません。私たちは全て科学的に、事実を常に理性的に説明する事に慣れているのです。

この二人の男のように、私たちは神様がすぐ横を一緒に歩いていてもそれが見えないでしょう。神様が私たちに約束どおり復活された救い主の話をしても、解らないでしょう。私たちは往々にして自分たちが見たいものだけしか見えないし、見るべきだと思い込んでいるものしか見えないのです。

しかし、それでも神様は現れてくださいます。イエス様は私たちが見ようとしてもしなくても、私たちの日々の生活に入ってきて下さるのです。

誰もがこのように、日々の生活で、思ってもいない時に神様が出現して驚いた出来事を経験したり（少なくてもそういう話を聞いたり）した事があると思います。最初はそれが神様だったとは解らなくても後から自分が実は神聖な出来事に出会った事がはっきり解って来るのです。

何年か前に私も実際にこのような体験をしました。それは私が病院のチャプレンのインターンをしていた時のことでした。その夜、私は電話待ちの担当でしたが、きっと何事も起きない静かな夜だろうと思っていたのです。（私が所属していたのは一階のトラマセンターだったのですが、普段は時間外に電話がかかってくる事等なかったのです。）ところが、この夜はそれまでの例とは違っていたのです。私のページャーが鳴り、呼び出された私は急いで救急病棟に降りて行きました。私を呼び出した看護婦が、起こった出来事全て手早く教えてくれました。

ある父親とその息子が運転する車が高架道路を走っていた時に、大型トラックに衝突されました。彼らの車に火がつき、息子は、高架道路から下のハイウェイに飛び降りることでどうにか燃え盛る車の残骸から脱出する事ができました。父親は残念なことに、救急車が到着した時にはすでに亡くなった後でした。息子は救急病棟に運ばれ、手当を受けていました。身体の大部分がやけどで、骨も折れていて、内出血もしている状態でした。

私は先ず自分を落ち着かせてから、この若者の母親が待っているカウンセリング室に入りました。彼女は夫と息子が交通事故にあって病院に運ばれたという電話を受け取り、近所の友人に病院まで連れて来てもらったそうです。彼女が私に、もう一人の息子に電話をしてこの事故の事を話した、と私に話すのを聞きながら、私の胸は痛みました。彼女はもう一人の息子に事故の事を電話で話した時に、彼の父親が事故で亡くなった事は話さなかったそうです。何故話さなかったかというと、もう一人の息子が運転してここまで来るまでに、動揺させたくないからだ、そう彼女は私に話してくれたのです。

私は彼女と彼女の友達と、後から集って来た家族の人達と一緒に座っていました。彼らはこの亡くなった人の事を話していました。私たちは共に祈りました。私は彼女に着いてトイレに行き、そこで彼女は私の腕の中で泣き崩れました。私はどうにか彼女にお水を飲ませ、少しでもと食べ物を勧めました。

彼女が暫くして少しの間その部屋を出て行った時でした。まだ部屋にいた友達や家族の皆さんは亡くなった人の思い出話しを私と分かち合ってくれたのです。彼がどれ程冗談を話すのが好きだったか、どれ程よい人間だったか、どれ程心の広い人で、信頼のおける人だったか、そしてどれ程音楽が好きだったか、彼らは私に話してくれました。私も彼らにこれからこの家族を支えて行くようにとお願いする事ができました。

その瞬間、私は何かを感じたのです。確かに私がここに来たのは、この状況に“イエスの慰め”をもたらす為のはずでした。神様は私を通して、少しでも人々に平和と慰めを与えるように、等と私は思っていたのです。しかし神様は私を驚かせました。

勿論そのとおり神様は私を通して何かをされましたのでしょう。しかし神様は、この部屋に居る人々を通して素晴らしいみ業を、今悲しみの中にいる家族にもたらしたのです。神様はこの人達が話している全ての話の中に存在していました、笑いの中にも、涙の中にも、冗談の中にも、人々が分かち合う愛の中にも、神様はいらしたのです。

神様は私たちが全く予期していない時に突如として現れるようです。しかし、私にとって、神様が何処にでも何時でも現れて下さる事を知っている事実が、大きな喜びであり慰めになっています。

今日の聖書の話しは、エマオに行く途中の二人の男にイエス様が現れてパンを裂き与えた話です。そしてこの話は、私たちが聖餐式に与る時、イエス様の身体であるパンと、血であるワインを分かち合うたびに、神様が私たちと共にいるということを思い起こさせる話でもあるのです

神様は、私たちが気づこうと気づくまいと、そこにいてくださいます。

アーメン.

芙美Liang 要約